令和元年度

三島小学校
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

○主体的に学習に取り組み，自分の思いや願いを豊かに表現できる児童の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 國原　勝寿	**委員**　校長・総括　： 教頭・総括補佐　： 教務主任・中学年推進員　： 高学年推進員　： 低学年推進員　： 特別支援教育コーディネーター　：

校長　印

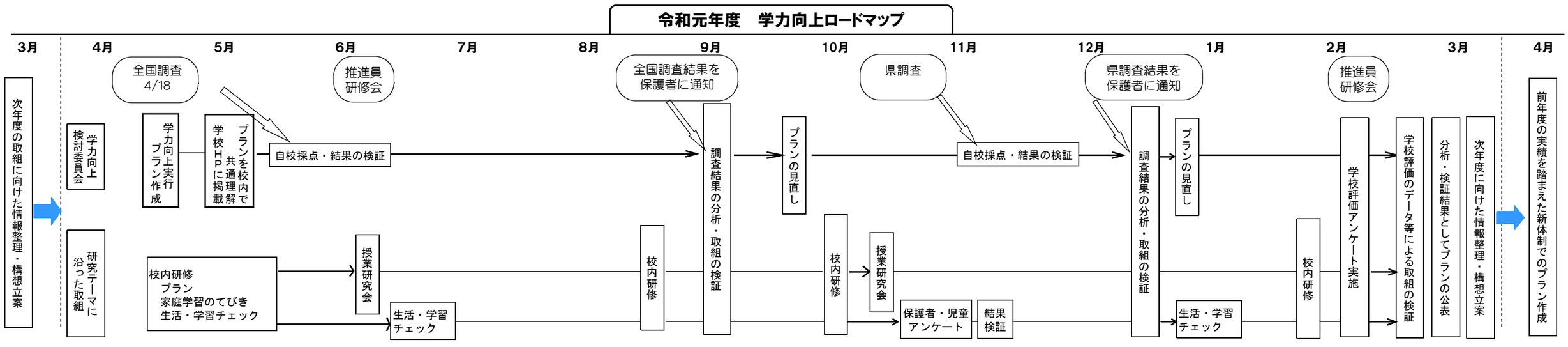
（１）基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況		具体的目標（目指す子供の姿）	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	・漢字や計算のドリル学習にまじめに取り組み，ある程度の定着が見られる。	・各学年で学習する漢字や計算等，基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。 ・日記や作文の中で，既習漢字を使うことができる。	年4回のまとめの漢字テストで，正答率が80%以上の児童を7割以上にする。	・定着確認テストの実施を継続し，児童の漢字の力の向上を図るとともに，児童一人一人の目標達成を認め，励ましながら意欲的に取り組ませる。	①全ての学年で，昼のドリルタイムの時間を使って，漢字や計算の練習や確認テスト等を行うことができている。 ②既習漢字を使って文章を書けている児童を称賛する等して意欲を高める取組を行っているが，まだ十分でない。	継続した取組により成果指標である「正答率80%以上の児童を7割以上にする。」に達する学年は増えてきているが，個人差が大きい。
課題	・学習した漢字を，日記や作文の中で適切に使えなかったり，算数の基礎的・基本的な知識・技能が定着していなかったりする児童が見られる。	**具体的方策（教員の取組）** ①昼のドリルタイムに，継続的に漢字・計算練習をさせたり，定期的に漢字・計算ミニテストを実施する。 ②日記や作文等に学習した漢字が適切に使えるよう指導する。	**取組指標** ①週に1回程度，定着確認テストを行う。 ②毎日，日記の漢字をチェックし，見本となるノートを紹介したり，シール等で称賛したりする。		**評価**：B	**次年度における改善事項** ・漢字テストの内容や問題の出し方を工夫する。（既習漢字を使って短文を書かせる等） ・児童による個人差が大きいので，児童の実態をしっかりと把握して，個々に応じた取組を行う。 ・漢字練習や文章を書く際に，既習漢字を使って書くことを継続して呼びかけいく。て

（２）知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況		具体的目標（目指す子供の姿）	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	・経験したことをもとに，感じたことを書く力についてはある程度の定着が見られる。	・書く活動を通して根拠や理由を明らかにしながら，自分の考えを表現できる。	「自分の考えを書いたり，進んで友達に説明したりすることができる」と回答する児童の割合を70%以上にする。	・全校で統一した「聴く・話す」「発表の仕方」を授業や集会等の様々な場面で，より児童に意識させ，活用していく。 ・自分の意見や考えを持たせるための「書く」時間を設定する。	①②全学年とも書いたり話したりする活動や少人数での話し合い活動を積極的に取り入れて取り組めた。 ③全校で統一したスキルを意識して，　取り組めた。	・アンケート結果では，「自分の考えを書いたり，進んで友達に説明したりすることができている」と回答した児童の割合が9割を超えている。
課題	・自分の思いや考えを筋道を立てて表現することに課題がある。	**具体的方策（教員の取組）** ①授業の中で，「書く・話す」場を意図的に設定する。 ②自分の思いや考えを話したり書いたりする機会を充実させる。 ③「聴く・話す」「発表の仕方」を全校で統一し，児童の定着を図る。	**取組指標** ①授業の中で，自分の考えを書いたり話したりする活動を一日に1回以上行う。 ②学習活動や行事の実施に合わせて作文や手紙を書かせる。 ③スキルを意識させ，授業中に使わせる。		**評価**：B	**次年度における改善事項** ・自分の考えを言葉や文章で表現する機会を増やすとともに，表現することに苦手意識をもっている児童に対しては，ペアやグループ学習等を活用しながら，段階を追った指導を継続して行っていく ・全校で統一した「聴く・話す」「発表の仕方」の取組を継続するとともに，定期的に振り返りながら内容を見直したり，学年や児童の実態に応じて内容を少しずつレベルアップできるように取り組む。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況		具体的目標（目指す子供の姿）	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	・与えられた課題に真面目に取り組むことができる児童が多い。	・学習のめあてをしっかりと意識して，学習に取り組むことができる。 ・家庭でもしっかりと読書をすることができる。	「家で勉強する時間が増えた。」「宿題の他に自分で決めた勉強ができている。」と回答する児童の割合を7割以上にする。	・毎月の「家庭学習の友」の反省だけに終わらず，常にめあてを意識させるように，取組を工夫する。 ・家庭との連携をより図りながら，家庭読書の充実を図る。	①毎月最終金曜日に全校で一斉に「家庭学習の友」のふりかえりを行うことができた。 ②図書委員会は放送で呼びかけたり，担任が定期的に読書カードをチェックしたりして読書を推奨した。	アンケート結果では，「家で勉強する時間が増えた。」と回答した割合が9割を超え，「宿題の他に自分で決めた勉強ができている。」と回答した割合が8割を超えている。
課題	・学習したことを振り返り，これからの学習や生活に生かそうと取り組むことができる児童が少ない。 ・家庭での読書量が少ない。	**具体的方策（教員の取組）** ①毎月「家庭学習の友」で自分の生活や学習の様子を振り返り，家庭とも協力して家庭学習の習慣化を図る。 ②本を借りるよう児童に声をかけたり，学年だより等で保護者に呼びかけたりすることで家庭読書の習慣化を図る。	**取組指標** ①毎月末に各学級で「家庭学習の友」の振り返りを行い，家庭に持ち帰らせる。 ②毎週末には必ず本を借りさせ，家庭学習として読書をさせる。		**評価**：B	**次年度における改善事項** ・「家庭学習の友」は月１回の振り返りだけの活用だけでは十分とは言い難いが，継続していくことで児童の意識も少しずつ変わっていくと思うので，今後は今の取組を継続するとともに，負担にならない範囲で効果的な活用方法を考えて取り組んでいく。 ・家庭での読書量を増やすために，保護者の理解や協力を得るための方策を考えていく。

令和元年度　学力向上ロードマップ